

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	41 中国言語文化学専攻	責任者	安藤好恵
基準5	学生の受け入れ	自己評価	B
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
≪回答≫学生の受け入れ方針に基づき入試を実施しており、学生募集や入試の運営体制については適切と判断するが、コロナ禍の影響もあり、中国からの留学生の確保が難しいため、後期課程の定員充足に問題があり、今後の課題として取り組む必要があることから B 評価とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） 中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、下記の能力を備えた受験生を各種試験で受け入れる。 1. 知識・技能 (1) 大学を卒業して十分な基礎学力を有している。 (2) 中国語の運用能力を高めたいと考えている。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 専攻分野に対して高い判断能力・分析能力や論文作成の能力を身につけたいと考えている。 3. 主体的に学び続ける態度 (1) 幅広い教養を修得し、物事の本質を見極め、柔軟で創造的な問題解決の能力を身につけたいと考えている。 (2) 専攻分野の研究を主体的に推し進め、学内外で研究成果を積極的に発表したいと考えている。 (3) 将来、研究者、教員、高度職業人として国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。 中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、下記の能力を備えた受験生を各種試験で受け入れる。 1. 知識・技能 (1) 前期課程を修了して十分な専門知識や研究経験を有している。 (2) 中国語の運用能力を実践的にレベルアップしたいと考えている。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 専攻分野に対して高い専門性を有する判断能力・分析能力や論文作成の能力を獲得したいと考えている。 3. 主体的に学び続ける態度 (1) 幅広い教養を修得し、物事の本質を見極め、柔軟で創造的な問題解決の能力を身につけたいと考えている。 (2) 専攻分野の研究を主体的に推し進め、学内外で研究成果を積極的に発表したいと考えている。 (3) 将来、国内外においてより有能な中国語の研究者、教員、高度職業人として社会に貢献したいと考えている。	変 更	有 () 無 (○)	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を		

	公正に実施しているか。	
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報	
評価の視点3※	専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿	
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> 各年度、専攻内で出題・面接委員を選出し、研究科委員会の承認を得ている。出題・採点・面接は必ず出題委員全員による確認を行うことで公正な入学者選抜を実施している。		<<資料名>> 41-C5-1:2022年度第4回議事録要旨
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）		
<<回答>> 検討していない。		
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）		
<<回答>> 検討していない		
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）		
<<回答>> なし		
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> 大学院説明会にて学部学生に対し大学院の説明を実施している。		<<資料名>> 41-C5-2:2022年度第3回議事録要旨
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：(開催日) 2023年度自己点検・評価について	

評価の視点2 【評価要件〇】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。	
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取組みも含めて記述してください。		
「回答」 秋季入試結果、春季入試結果が研究科委員会において報告されることで定員に対する充足率が示される。これらを大学院説明会、シンポジウム等の取組みの成果として捉え、充実した活動の動機付けとする。	「資料名」 41-C5-3:2022年度第9回議事録要旨	

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	
--------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2019-5Ⅲ-1(5-3)	本学卒業生の大学院入学促進	前期課程と後期課程はともにバランスよく、安定した定員充実度を目指すと同時に、本学卒業生の大学院入学を促進する。	本学卒業生の大学院への進学率で評価する。卒業生の場合、教職免許取得者、一般学生、留学生などを視野とする。	A(100%)：三名 B(80%)：二名 C(50%)：一名 D(20%)：ゼロ	2022 未結果：B 2023：B 2024：A 2025：A 2026：A 2027：A 2028：A

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度〈所見〉</p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表されている。入試委員会を設置するとともに、学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。これらの点は、公正な入学者選抜を実施するための運営体制が整備されているものと評価できる。</p> <p>入学定員未充足は、5年平均値が修士課程0.50未満、博士課程0.33未満が、それぞれ改善課題となり、収容定員未充足は、修士課程0.50未満、博士課程0.33未満が、それぞれ改善課題となります。これに対して、2022年度の入学定員充足率は、修士課程では2020年度・2021年度に0.20であったものが0.40と向上している点は評価できる。5年平均値も0.48であり、努力された結果である。一方、博士課程では5年平均値は0.33であるものの、2021年度および2022年度は0.00となり、今後注意が必要である。また、収容定員充足率については、修士課程では2021年度に続き2022年度も0.30であり、改善課題の対象となる。博士課程では2020年度・2021年度に0.56であるが、2022年度には0.33と減少しているため、注意が必要である。コロナ禍の影響もあり、中国からの留学生の確保が難しいことが要因であることは自己評価の理由にて言及されているが、今年度入試の動向を見ながら多面的な分析・検討を行い改善に向けて取り組まれることが望まれる。</p> <p>なお、項目(3)5-3「収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、どのように対応しているか」に対しては、回答がなかった。さらに、「2021年度大東文化大学点検・評価報告書」における【問題点】として、「5-3 収容定員充足率の改善」があげられているため、今後の対応に期待する</p>
--

<p>2023年度<所見></p> <p>学位授与方針、教育課程の編成方針と連関した入学者受け入れ方針を前期・後期課程ごとに設定し HP 等で公表している。入学者選抜の制度化に関しては、課程ごとに入試委員会を組織し、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」により、公正な入学者選抜を実施するための運営体制が整備されているものと評価できる。</p> <p>2023年度の博士課程前期課程の入学者志願者数は3、入学定員に対する5年平均比率は0.48、収容定員充足率は0.50、博士課程後期課程の志願者数は1、入学定員に対する5年平均比率は0.13、収容定員充足率は0.00となっている。それぞれ「改善課題」となる基準である0.50未満、0.33未満となっている。未充足であることの当該部局としての改善策として、「大学院説明会にて学部学生に対する説明」とある。一定の効果はあるものと思料するが、今後効果の検証を始め多角的な分析・検討を行い、これまでの方策の見直しや方策追加など比率改善に向けての取り組みが望まれる。</p>
--

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p>基準5 学生の受け入れ</p> <p>【大学基準】</p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>(解説)</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。</p> <p>大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。</p> <p>大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。</p> <p>大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。</p>
--